

令和 6 年 8 月 22 日
建設部都市計画課

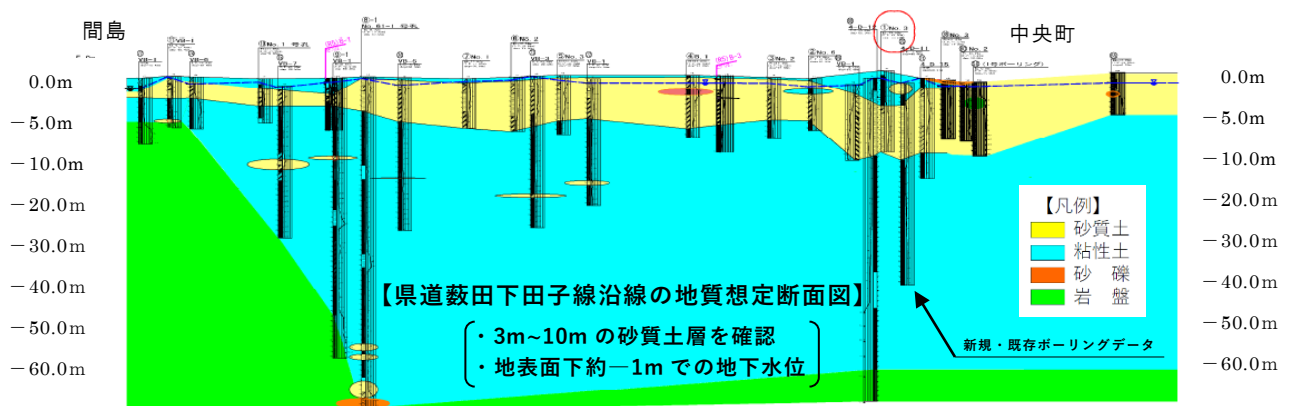
液状化対策の進捗状況について

1 公共施設と一体となった宅地の液状化対策検討地域の把握

- ・ 調査員の目視や 3 次元レーザ測量を利用した上空からの撮影による被災状況の把握
- ・ リ災証明（1 次調査・2 次調査）結果を参考とした被災状況の確認
- ・ 3 次元レーザ測量による沈下状況の把握

2 被災地域の地質想定断面図の作成

2 か所の調査ボーリング結果や既存ボーリング資料からの被災地域の地質想定断面図の作成。液状化したと予想される地層厚の確認



3 第 1 回氷見市液状化対策検討委員会の開催

液状化対策にあたり、地盤の液状化に関する専門家の方々の意見を反映させるための委員会（委員長 三村 衛）を設置し、8 月 1 日に第 1 回委員会を開催。被害概要やボーリング調査結果の確認、被災メカニズムの確認、そしてこれまでの液状化対策についての意見をいただき、追加ボーリング調査・試験の実施や実現可能性のある工法の立案の参考とした。

【国の液状化防止事業の採択事例工法】

【地下水位低下工法】

道路に地下排水工を敷設して、地下水位を下げることにより、地盤の液状化強度を増加。



【格子状地中壁工法】

道路と宅地の境界部分等に格子状の連続壁を造成し、地盤の変形を抑えて液状化被害を軽減。



4 今後の予定

第 2 回検討委員会を 10 月上旬に開催予定。追加ボーリング調査結果などを踏まえ、基本的な対策工法を選定し、実現可能な対策工法案の比較検討を予定。その後、概算工事費、事業費の算定をはじめ、国の事業採択に必要な液状化対策全体計画を策定する。